

1年〇組「自立活動」学習指導案

日時 令和7年10月20日(月)

第4校時 11:00～11:50

場所 高等部1年〇組教室

授業者 ○○○ ○○

1 主題名 「集中して課題に取り組み、適切なコミュニケーション方法を身に付けるための学習」

2 主題設定の理由

(1)生徒の実態

高等部 第1学年 男

- ・別紙1「教育支援プランBⅠ(個別の指導計画)」参照
- ・別紙2「自立活動の指導計画」参照

(2)主題観

本生徒は、基本的に活動には前向きで、何事にも一生懸命取り組む姿が見られる。日頃行っている机上学習や作業学習、朝運動だけでなく、他生徒の前で発表することや新しい活動に対しても積極的である。日常生活においては、着替えや食事、荷物整理など毎日繰り返し行う活動は一人で行う様子が見られる。学習面ではひらがなの拾い読みで読みや自分の名前をひらがなで書くことができ、1から4までの数字と数のマッチングや10までの数唱ができる。また、明るい性格で慣れた人には自分から話しかけたり、休み時間等友達と笑顔でじゃれ合ったりするなど人と関わるのが好きである。その反面、周囲の話し声が聞こえたり、興味のあるものが見えたりすると、それに気を取られて一人でできることにも時間がかかってしまう。細かな作業では、見るべき場所が分からず手順を間違えてしまうこともある。特に集団での学習では、説明されている内容を理解できず活動内容を聞き逃してしまうことが多い。また、家での出来事など自分から話そうとするが、早口になってしまい相手に聞き取ってもらえないことがある。加えて、どのように伝えたらよいか分からず、本人が困ったときには自分から報告・相談することが少なく、その結果、動きが止まってしまうことがある。

本生徒は

- ア 作業の際、見るべき場所が分からない、話を聞いても内容が理解できず集中して話を聞くことが難しい、といった理由で集中して活動に取り組むことが困難である。
- イ 舌や口の動かし方が分からず、相手が聞き取れない程度の早口で話をしてしまうことがある。

ウ 支援要求の方法が分からず、困ったときに自分から報告や支援要求をすることが難しい。

という困難さを抱えている。本主題ではこれら3点を本生徒の学習上または生活上の困難さと捉え、その困難さを軽減するため以下のような指導方針を立てた

ア' 枠で囲んだり、目立つ色で記したりして、見るべき場所を明確に示す。その上で、正答するには注視する必要がある活動を設定することで、見るべきものを見る技能・習慣を育てていく。また、話をしている際に文字やイラストなどの視覚支援を用いたり、実際に手本を提示したりしながら説明し、言葉と名詞・動詞・形容詞などの意味をマッチングする課題を設定することで、話の内容を理解し、集中して聞く知識・技能・態度を育てていく。

イ' 自分の口の動きが分かるように鏡を使いながら舌や口の動かし方を学習する機会を設ける。それにより、相手に聞き取りやすい言葉で話すことのできる知識・技能・習慣の定着を図る。

ウ' 報告・支援要求のためのカードや言葉のテンプレートを用意しながら、報告や支援要求が必要な活動を設定し、繰り返し練習する機会を設けることで、自発的な報告や支援要求ができる技能・態度を育成する。また、日常や学校生活で人と関わる場面を示した写真やイラストを用いながらロールプレイをする機会を設けることで、本生徒が場面に応じた言葉遣いができる態度・習慣を育てていく。

指導方針から設定した活動を時間における指導を中心に取り組み、他の生活場面や教科学習の際にも、見るべき場所が分かるように視覚的支援を行いながら、自然な流れの中で注視する必要がある活動を設定することで、見る力・聞く力を育てていく。さらに、活動内容を伝える際だけでなく、日常的な会話の際に文字やイラストなどの視覚支援を用いたり実際に手本を提示したりしながら説明するとともに、必要に応じて言葉と名詞・動詞・形容詞などの意味を確認する時間を設けることで、言葉の意味を理解しながら相手の話を聞く力を育てていく。一連の指導を通して集中して活動に取り組むことができる知識・技能・態度を養う。(ア) また、本生徒が自分で舌や口の動きを意識できるよう、他の学習場面や会話・発言時にも鏡を提示することで、相手に聞き取りやすい言葉で話すことのできる知識・技能・習慣を育てていく。

(イ) 日常の様々な場面で、必要に応じて報告・支援要求カードやテンプレートを手元に準備する。さらに、報告や支援要求、人と関わる場面を活動の中に意図的に設定することで、適切な関わり方や自発的に助けを求める態度・習慣を育成する。(ウ)

(3) 指導観

授業を行う際は、本人が集中できるよう、パーティションを使用するなど周囲の刺激を減らし、言葉かけは最小限にする。課題設定では、自信をもって意欲的に取り組めるよう、本人が一人でできる学習課題を中心に設定する。また、本人が見通しをもって取り組めるよう写真やイラストを使用した指示書を用いる。

教材は本人が見るべき場所が分かるようにシンプルなデザインのものを用意する。教材の提示のみで注視する箇所が分からない場合は指差しをしたり、位置を言葉で伝えたりするなど支援を加えていく。また、言葉と名詞等の意味をマッチングする課題では、正答することで次の学習課題への意欲につながるように、本人が知っている単語から始め、他の日常生活や学校生活で使用する言葉に広げていく。(ア) 舌や口の動きの学習課題では、力が入りすぎず自然な動きができるよう、楽しい雰囲気をつくる。動かす箇所や方向が分かるように触れたり、指差しで伝えたりする。(イ) ロールプレイでの学習課題では、実際の場面で活かせるよう、日常生活や学校生活で支援が必要な具体的な場面を取り上げる。手元に言葉のテンプレート(カード)を置き、その中から適した言葉を選べるようにする。また、自ら支援の必要性に気づき、要求できるよう、物を組み立てる・文字を書くなど、活動の過程に意図的に支援が必要な状況を取り入れたり、教員や友達との対話の中で質問を促す場面を設けたりする。(ウ)

3 指導目標

ア 集中して見たり、聞いたりしながら活動に取り組むことができる。

イ 相手が聞き取れる言葉でコミュニケーションをとることができる。

ウ 自分から報告や支援要求ができる。

4 指導計画

学期	指導目標	授業時数
1	<ul style="list-style-type: none"> ・作業に必要な箇所を見たり、活動に必要な説明を聞いたりしながら取り組むことができる。 ・相手が聞き取れる言葉で挨拶や返事ができる。 ・教員の促しに応じて報告することができる。 	1 1
2	<ul style="list-style-type: none"> ・集中して見たり、聞いたりしながら活動に取り組むことができる。 ・相手が聞き取れる速さの言葉でコミュニケーションをとることができる。 ・自分から報告や支援要求ができる。 	1 7
3	<ul style="list-style-type: none"> ・集中して見たり、聞いたりしながら活動に取り組むことができる。 ・相手が聞き取れる言葉でコミュニケーションをとることができる。 ・自分から報告や支援要求ができる。 	1 2

5 本時の構成

(1) 本時の目標

- ア 必要な箇所に注目したり、教員の指示を集中して聞いたりしながら活動に取り組むことができる。
- イ 相手が聞き取れる言葉で発言することができる。
- ウ 支援カードを使って自分から報告や支援要求ができる。

(2) 展開

配時	学習活動	指導上の留意点・指導の手だてと支援 ○児童（生徒）の活動 ◆教師の支援 ※評価の観点	備考
11:00	1 あいさつ	○姿勢を正して挨拶をする。 ◆正しい姿勢になるよう声かけで促す。	
11:02	2 スケジュールの確認を (活動の見通しながら、発語を促す学習課題)	○スケジュールを声に出して確認する。 ◆読んでいる箇所がわかるように、スケジュールに書かれた文字を指さして示す。 ◆活動終了後と支援要求時の定型文（「できました」「次の課題をください」「手伝ってください」）を事前に確認する。	スケジュールボード 支援要求カード
11:05	3 ビーズ通し (集中して見る学習課題、物品要求、支援要求を促す学習課題。)	○組み立てに必要な道具を用意する ○指示書を見て、必要な色のビーズを教員に伝えながらビーズ通しをする。 ◆伝え方が分からないときは、「○○をください」カードを指差しして促す。 ◆意図的に難しい工程を作り、支援要求を促す。 ◆支援要求ができるように一人で行うことが難しいときは「手伝ってください」と言うように伝える。	ビーズ指示書 支援要求カード言葉のテンプレート
11:15	4 口の体操 (舌の動かし方や口回りの動かし方を学ぶ学習課題)	○教員の口や舌の動きを見て模倣する。 ◆自分の口や舌の動きを確認できるように鏡を用意する。	鏡 スプーン

11:20	5 言葉と意味の マッチング (言葉の意味を 理解する学習課 題)	○イラストを見て名詞・動詞・助詞を答える。 ○分からないときは「おしえてください」と伝える。 ◆イラストを提示しながら何を表しているか質問する。 ◆既知の単語から提示し、主語と述語のある文へと発展させる。 (8問～10問)	イラスト・写真
11:30	6 絵探し・間違 い探し (注目して見 る・言葉で説明 する学習課題)	○教員が言ったものを絵から探して答えたり、2つの絵 を見比べて違いを答えたりする。 ◆「○○はどれ？」や「違いはどれ？」と問いかける。 ◆早口になる場合はゆっくり話すように伝えたり、文字 に起こして読むように促したりする。 (5問～8問)	絵 紙・鉛筆
11:40	7 ロールプレ イ (場面に 応じた やりと りを 学ぶ 学習課 題)	○学校生活での場面や日常生活の支援要求場面を設定 し、教員や他生徒とロールプレイングをする。 ◆場面に 応じた 言葉遣 いので きるよ う、会 話のテ ンプレ ートを 用意す る。 (2～3 場面)	写真・イラストカ ード 会話のテンプレ ート
11:48	8 あいさつ	○姿勢を正して挨拶をする。 ◆正しい姿勢になるように声かけする。	

6 本時の評価

(1) 児童(生徒)の学習評価

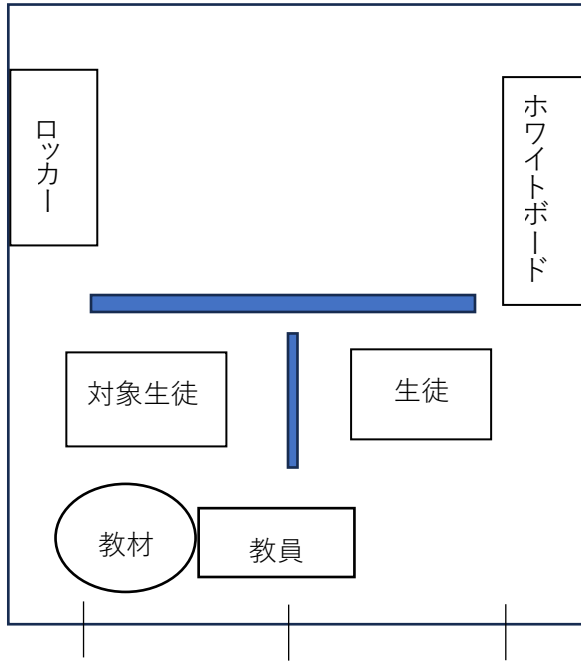
- ア 必要な箇所に注目したり教員の指示を集中して聞いたりしながら活動に取り組むことができたか。
- イ 相手が聞き取れる言葉で発言することができたか。
- ウ 「できました」「次の課題をください」「教えてください」など適切な言葉遣いで自分から報告や支援
要求ができたか。

(2) 教師の指導の評価

- ・本人の実態に対して主題設定・目標設定が妥当だったか。
- ・集中して課題に取り組めるような環境設定や教材の提示の仕方ができていたか。
- ・適切なコミュニケーションが取れるような課題設定や関わり方ができていたか。

7 備考

(1) 配置図



(2) 参考資料

「知的障害特別支援学校での摂食指導と言語指導」 坂口しおり著／ジアース教育新社

「ダウン症児の学びとコミュニケーション支援ガイド」 玉井 浩編集／診断と治療社